

3 サケ年齢組成と体サイズ

独立行政法人水産総合研究センター  
北海道区水産研究所 さけます資源部

- ・北海道では前年より 5 年魚が多く 4 年魚が減少、3 年魚は 1990 年以降で最も少ない
- ・本州太平洋では 5 年魚が前年を上回るが、1990 年代以降では全ての年齢 (2~7 年魚) で 1~3 番目の低水準
- ・本州日本海では、4~5 年魚がともに前年を下回るが、3 年魚は前年を大幅に上回る
- ・北海道および本州の太平洋側では、2009~2006 年級 (今年の 3~6 年魚) が、いずれも 1992 年級以降で 1~3 番目の低水準
- ・サケ平均重量は小型化が顕著だった 1990 年代前半よりも小さい (北海道 : 3.10kg、本州 2.77kg)

・サケの年齢組成

(全国)

全国の主要な河川で調べたサケの年齢査定結果 (途中経過) をもとに、12 月末時点の年齢別来遊数を推定すると、4 年魚 (2008 年級) は対前年同期比 82.4%、5 年魚 (2007 年級) は対前年同期比 159.9%であり、来遊の主群を構成する 4 年魚で前年を下回り、5 年魚で前年を上回っています (図 1)。また、1990 年以降でみると 4 年魚 (2008 年級) は平年\*1 同期比 61.3%、3 年魚 (2009 年級) は同 53.7%、2 年魚 (2010 年級) は同 8.5%であり、過去 1~2 番目に少ない来遊数となっています。

\*1:平年とは、平成 2(1990)~平成 23(2011)年の平均値

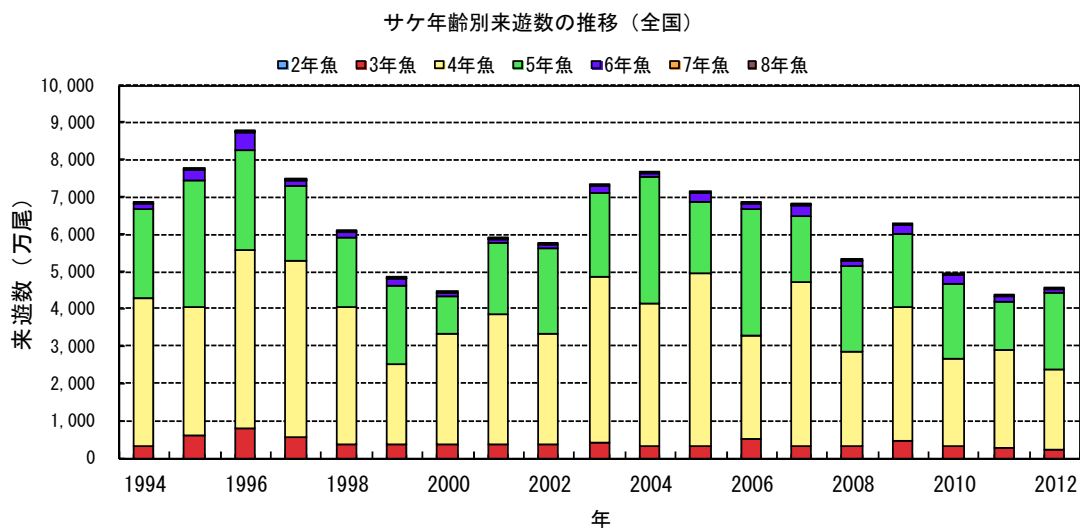


図 1. 12 月末時点のサケ年齢別来遊数 (全国)

(北海道)

今年の年齢組成をみると、主群である4年魚と5年魚が12月までの来遊数のそれぞれ47.9%および47.3%を占めており、両者の来遊数がほぼ同じになっています(図2)。5年魚(2007年級)は対前年同期比158.8%、4年魚(2008年級)は同81.2%であり、4年魚が前年を下回る状況です(図2)。一方、3年魚(2009年級)は対前年同期比73.0%であり、3年魚としては1990年以降で最も少ない来遊数となっています。

年級ごとの来遊数をみると、今年の4~6年魚である2008~2006年級は、これまでに回帰した年齢までの来遊数と比較した場合、いずれも1992年級以降で2~6番目に来遊数の少ない年級に相当します(図3)。この傾向は太平洋側(根室~えりも以西海区)で特に顕著であり、今年の4年魚である2008年級と6年魚である2006年級は、それぞれ1992年級以降で最も少ない来遊数を記録しています(図4)。それとは対照的に、日本海側(オホーツク海区及び日本海区)の2006~2008年級は、2007年級で過去(1992年級以降)2番目に高い水準であり、2006および2008年級も過去(1992年級以降)の平均的な来遊数と同等もしくはそれを上回る水準です(図5)。しかしながら、今年の3年魚である2009年級は、太平洋側および日本海側ともに、これまでのところ過去2番目に少ない来遊状況となっています(図4および5)。

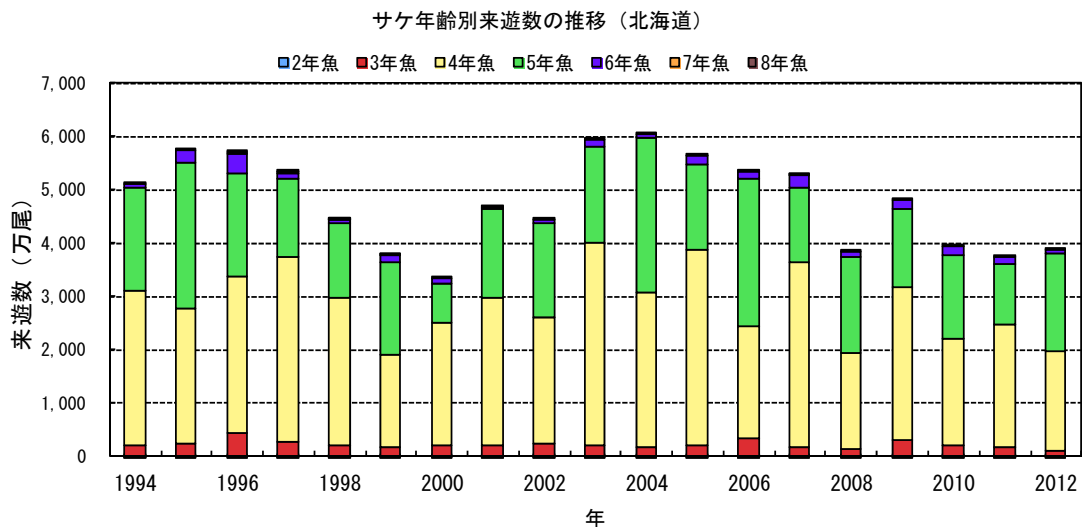


図2. 12月末時点のサケ年齢別来遊数(北海道)

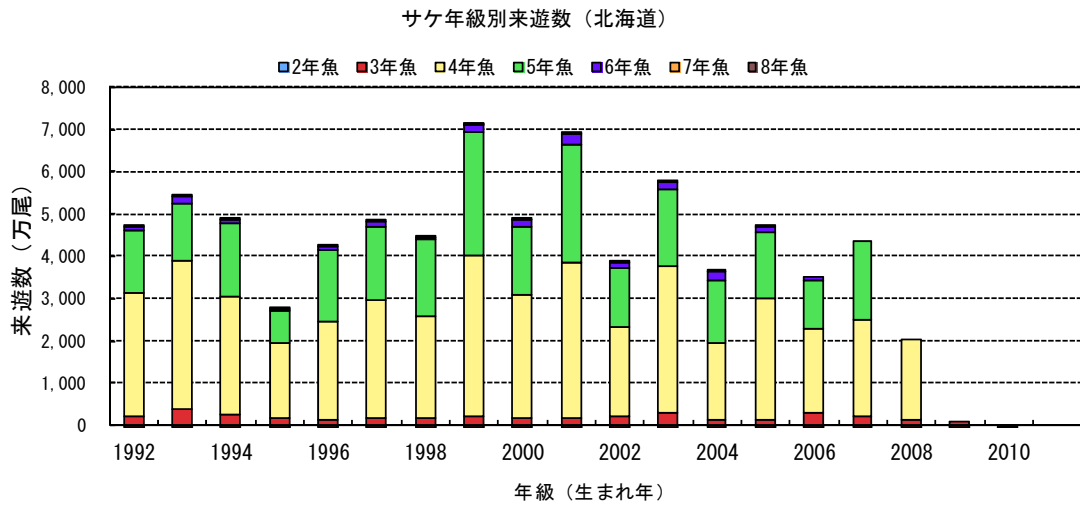


図 3. 12 月末時点のサケ年級（生まれ年）別来遊数（北海道）

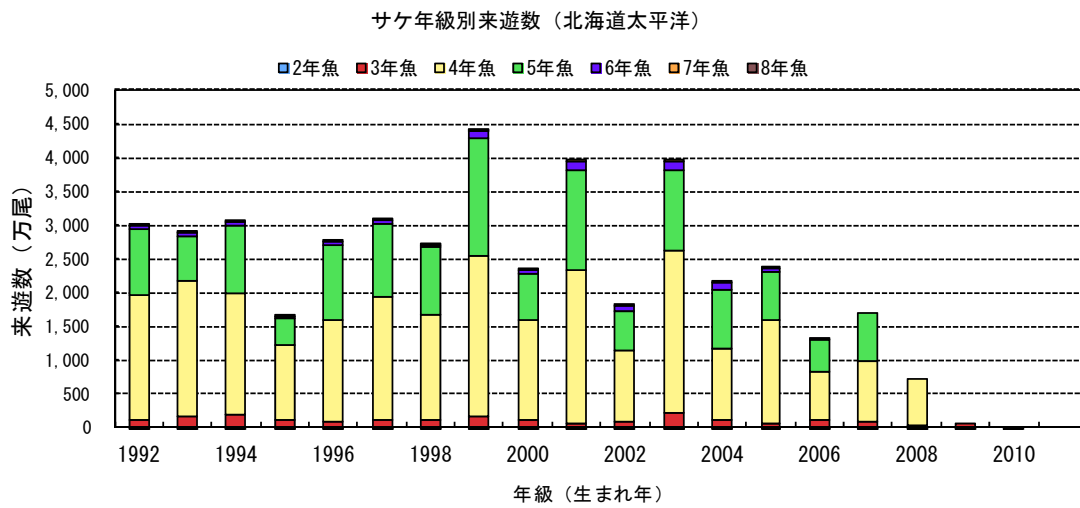


図 4. 12 月末時点のサケ年級（生まれ年）別来遊数（北海道太平洋）

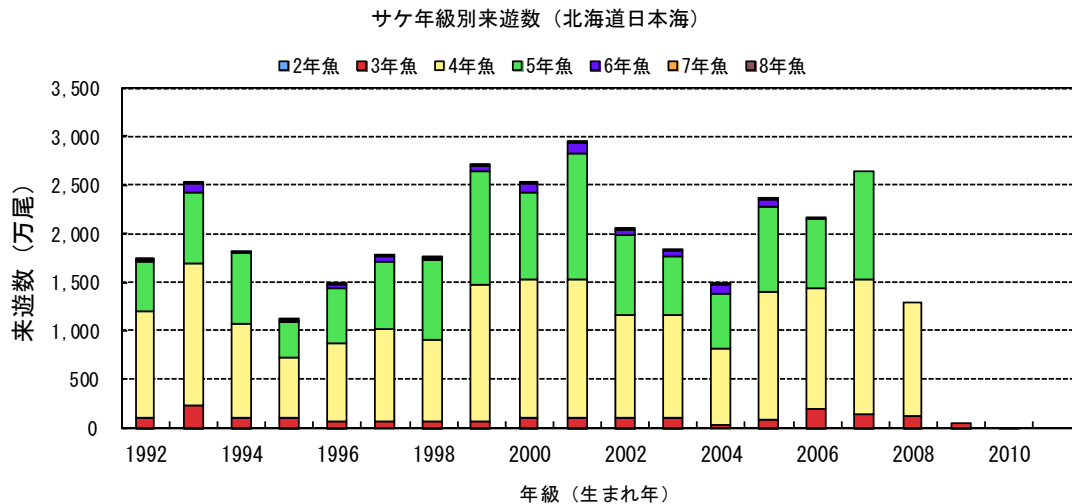


図 5. 12 月末時点のサケ年級（生まれ年）別来遊数（北海道日本海）

（本州）

本州太平洋側では、4 年魚（2008 年級）が対前年同期比 93.3%、5 年魚（2007 年級）が同 178.8%であり、5 年魚で前年を上回る来遊数となっています（図 6）。一方、3 年魚（2009 年級）は対前年同期比 79.1%、例年ならば毎年出現している 2 年魚（2010 年級）が今年はいくつかの場所で見られないなど、若齢魚の来遊状況が低調です。本州日本海側では、4 年魚（2008 年級）が対前年同期比 76.7%、5 年魚（2007 年級）が同 64.8%とそれぞれ前年を下回っていますが、3 年魚（2009 年級）が同 255.3%と前年を大幅に上回っています。その結果、今年の年齢組成では 3 年魚が 44.3%を占め、4 年魚の割合 42.9%を上回っています（図 7）。

年級ごとの来遊数をみると、今年の 4～6 年魚である 2008～2006 年級は、これまでに回帰した年齢までの来遊数と比較した場合、太平洋側では 1992 年級以降でいずれも 1～2 番目に少ない来遊数に相当します（図 8）。日本海側でも、2008～2006 年級は過去（1992 年級以降）の平均的な来遊数を下回る状況ですが、3 年魚である 2009 年級は過去 2 番目に高い水準となっています（図 9）。

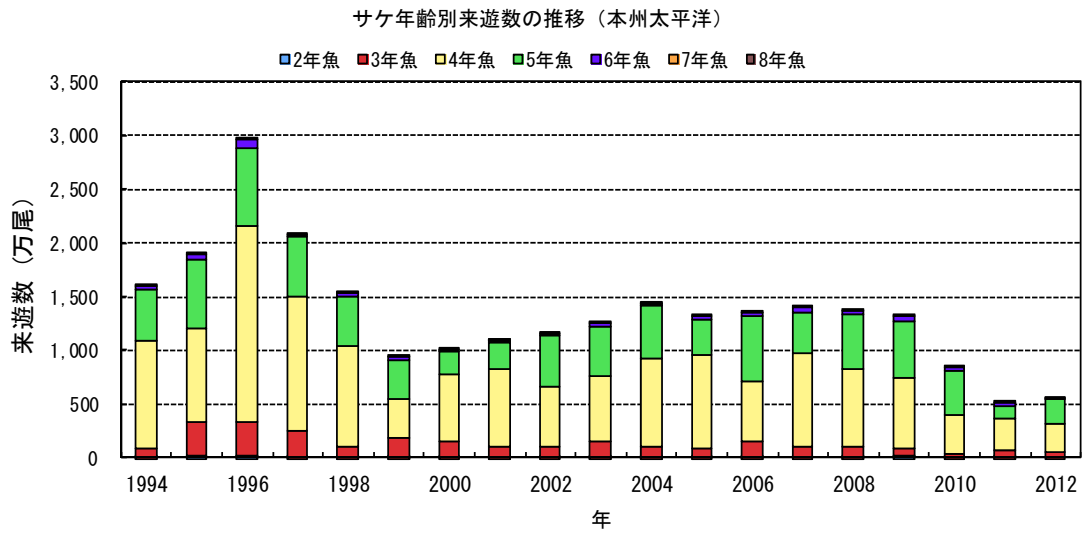


図6. 12月末時点のサケ年齢別来遊数（本州太平洋）

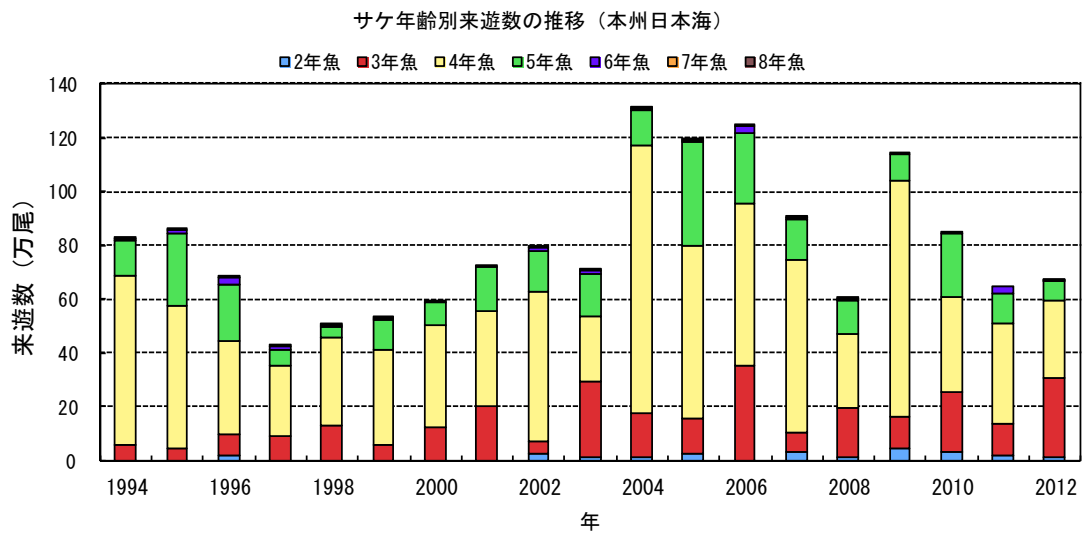


図7. 12月末時点のサケ年齢別来遊数（本州日本海）

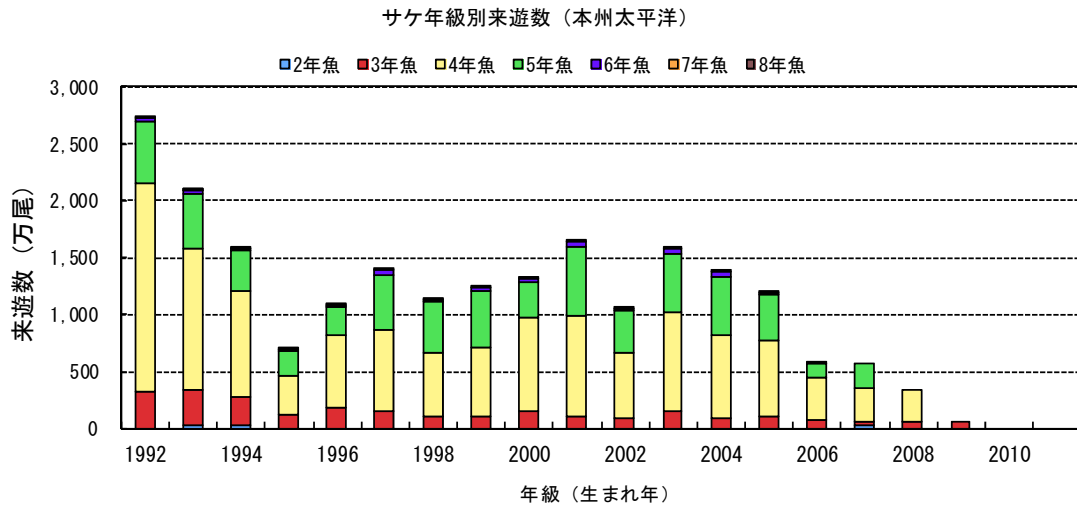


図 8. 12 月末時点のサケ年級（生まれ年）別来遊数（本州太平洋）

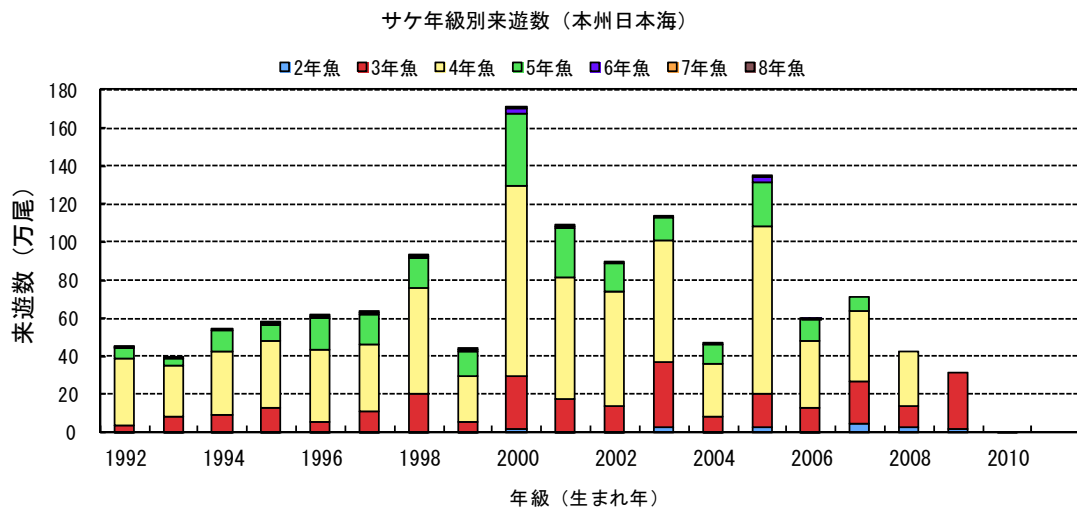


図 9. 12 月末時点のサケ年級（生まれ年）別来遊数（本州日本海）

・サケの体サイズ

本州における 12 月 31 日までのサケ 1 尾当たりの平均重量（サケ漁獲数と漁獲重量から算出）は 2.77kg であり、これは対前年同期比 92.0%と昨年より小さくなっています。

北海道の平均重量は 3.10kg であり、これは対前年同期比 92.5%と昨年より小さくなっています。また、平成元(1989)年～平成 23(2011)年の同時期（12 月末まで）における平均重量を比較すると、小型化が顕著だった 1990 年代前半よりも若干小さくなっています(図 10)。

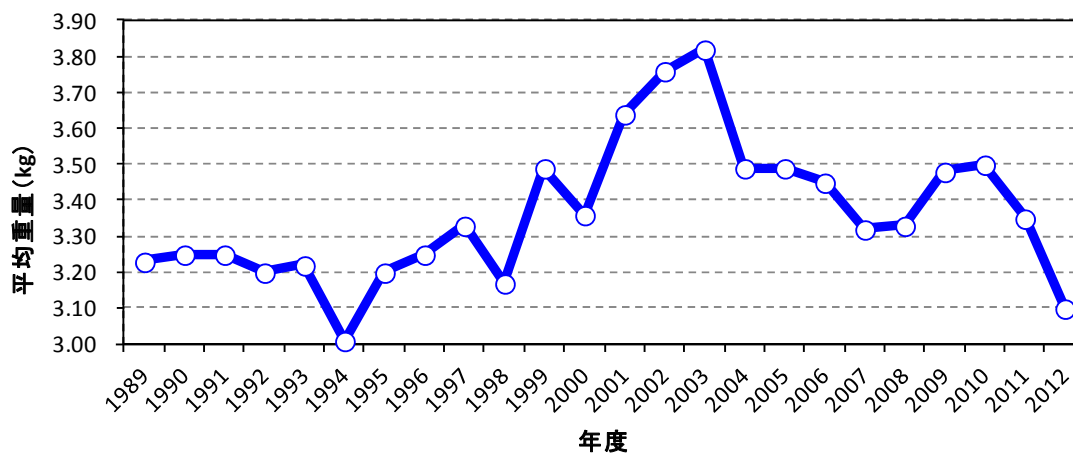


図 10. 12 月末時点のサケ平均重量（北海道）